

I 日常生活に溶け込む既存の公共交通の磨き上げ		現状値	平成30年度実施状況	今後の取組
デマンド交通の利便性の向上				
No.1	デマンド交通ひめさゆりの全日運行 【中間目標値:80,000人、最終目標値:83,000人】	デマンド交通利用者数 72,698人（平成28年度）	75,675人	No.5の取組を通じた利用促進を図る。
No.2	多用者に対する負担軽減策の検討	-	検討を行ったものの方向性は見い出せていない。	引き続き検討を行う。
No.3	生活交通路線の見直しの検討	路線バス利用者数 70,510人（H27.10～H28.9）	継続運行 80,485人（H29.10～H30.9）	公共交通の在り方を検討し、特に、費用面と利用状況を軸に見直しに取り組む。
No.4	地域主体のコミュニティバス拡大の検討 【中間目標値:1地区、最終目標値:2地区】	1地区でコミュニティバスを運行	要望のあった栄地域、下田地域との話し合いを実施した。	引き続き調整を行う。
No.5	デマンド交通利用促進に向けた出張講座の実施	-	13か所で実施	出張講座で説明を行うとともに、住民の移動手段や通院、買い物先を聴き取り、交通体系の見直しに活用する
高校生のバス等利便性の向上				
No.6	循環バスぐるっとさんの一部コースの見直し等の検討	循環バス利用者数 31,708人（平成28年度）	継続運行	公共交通の在り方を検討し、学生の通学手段として充実できるよう見直しに取り組む。
No.7	高校生通学ライナーバスの利用促進 【中間目標値:6,050人、最終目標値:6,050人】	高校生通学ライナーバス利用者数 6,062人（平成28年度）	市内全中学校卒業生にチラシを配布した。利用者数：7,144人	高校生ライナーと併せて循環バスを利用して高校へ通学できる旨の周知を行う。
No.8	バス待合環境の整備	-	東三条駅前駐車場をオープンし、バス待合環境を整備した。	バス待合環境の充実を図るため、キッチンカーの出店やイベントの実施など東三条駅前駐車場のPRと高校生の居場所づくりに努める。
No.9	鉄道の運行ダイヤ見直しの要望	-	JRへ要望	引き続き要望を行う。
II まちづくりのエリアを意識した外出で利用される公共交通の構築				
イベント等で利用しやすい交通体系の整備				
No.10	デマンド交通おでかけバス購入拡大 【中間目標値:350人、最終目標値:500人】	230人（平成28年度）	245人	下田地域ではおでかけバスの購入を継続するリピーターの割合が約6割となっているものの、三条地域、栄地域では5割に満たない状況であり、定着には至っていないため、例えばバスの購入キャンペーンを行うなど購入者の拡大を図る。
No.11	デマンド交通おでかけバスの協賛店の拡大 【中間目標値:85店舗、最終目標値:100店舗】	70店舗（平成28年度）	72店舗	公共交通マップの策定を機に協賛店の情報を掲載するなど、取組を広くPRし更なる協賛店の拡大につなげる。
III 観光における二次交通の充実				
観光拠点に向けた交通機能の充実				
No.12	八木ヶ鼻温泉線の見直しの検討	路線バス利用者数 70,510人（平成28年度）	実施なし	公共交通の在り方を検討し、特に、費用面と利用状況を軸に見直しに取り組む。
No.13	デマンド交通を活用した観光企画の検討 【中間目標値:56か所、最終目標値:60か所】	観光スポットに設置するデマンド交通停留所数 52か所（平成29年度）	工場の祭典開催時の1時間前予約の緩和及び臨時停留所の設置（51か所）	臨時停留所の設置を引き続き実施するとともに、観光スポットへのデマンド交通の停留所の設置について検討する。
No.14	燕線、寺泊線の接続見直しの検討	路線バス利用者数 70,510人（平成28年度）	実施なし	公共交通の在り方を検討し、特に、費用面と利用状況を軸に見直しに取り組む。
No.15	八十里越開通後の只見方面の運行の検討	-	実施なし	三条市・只見町戦略会議での連携の方向感に沿って検討を行う。